

「牢の祈り」

～あなたは何を行うか

使徒 12:1~25

皆さんと共に礼拝できることは、本当に感謝です。当時はそれがままならない状況でした。ペテロは、ヘロデ王によって投獄されました。ステパノの殉職に続いて、使徒の一人であるヤコブも殺されました。ヘロデ王は、いかにユダヤ人に愛され、ローマ人から尊敬されるかを考えるような王でした。神に好かれることよりも、人々に好かれることを求めるヒューマンズムにおちていったのです。この「ヘロデ」とは、ヘロデ・アグリッパと言い、イエス様が誕生したときにユダヤを支配していたヘロデ大王の孫にあたる人物です。だから何とかして、ユダヤ人に好かれようとして、自分たちの立場を脅かすイエス・キリストを信じる人々を制圧しようとしてきました。ヨハネの兄弟ヤコブが首を刎ねられるのをユダヤ人が非常に喜んだのを見て、今度はペテロを殺そうとして投獄したのです。絶対に脱獄できないような牢屋に入れ、4人1組の兵士4組に監視させました。なぜなら、以前にもイエス様の弟子が投獄された時に助け出されたことがあったからです。ヘロデ王は、ペテロはイエス様から一番愛された弟子だったので、どんな方法で殺したらユダヤ人が喜ぶか考えていました。

弟子たちは、部屋に集まりペテロのために真剣に祈っていました。しかし、ペテロ本人は牢獄の中で熟睡していました。すると、御使いが現れ、ペテロの腹を突いて起こしました。

そして、服を着て、靴を履きなさいと言われ、牢屋を出て城壁を出て外に出ることができたのです。ペテロは自分たちの同胞が心配して祈っていることを思い、そこまで行き入り口の戸をたたきました。すると女中が出てきて非常に驚き、喜びのあまり戸も開けずに奥に入っていました。女中は、皆にペテロが門の外に来ていることを伝えると、彼らは「お前は気が狂っている」と言いました。それまで真剣に祈っていたのに、目の前に神様の栄光を見ると、信じられなくて、驚いてしまったのです。彼らは、知識が先に進んでしまい「それはペテロの御使いだ」と言いました。そこでペテロが入ってきて彼らに主がどのようにして牢から救い出してくださったのかを話し、ようやく信じることができたのです。その後ペテロは、その町の外に出ていきました。

朝になって、ヘロデは、ペテロがいなくなったことに気づき、国中を探したが見つけることができません。そこでヘロデは、ある飢饉が起こっている地域の人たちを非常に嫌っていたが食糧を供給することに決めました。ヒューマンリストたちは頭が良く、人々を虜にする方法をよく知っていたのです。

■ クリスチャンの生き方

私たちには、4種類の間人がいます。ペテロ、保身者、クリスチャン、群衆の4種です。ペテロ本人は、なぜ寝ていたのでしょうか。保身者たち（ヘロデやユダヤ人）はなぜ殺そうとしたのでしょうか。そして、クリスチャンたちは、あれだけ祈っていたのに、なぜ受け止められなかったのでしょうか。そして群衆は、自分のために王様を神と呼びました。彼らはユダヤ人で、神様をずっと待っていたのに、イエス様のことは神様じゃないと言って、十字架にかけました。この後、救い主メシアが彼らの予定では来るはずでした。ところが、ヘロデを神と呼んでしまったのです。ヒューマンリストは人々に好かれることで幸せを得るからです。皆さん、好かれることを喜ばないでください。愛されることを喜んでください。気休めを言うと好かれます。愛は一度疎まれても、本当に愛していることがわかると返ってきます。大事なことはこれです。だからその人のことを愛して、その人のために真剣に伝えるのなら嫌われたって

いいのです。いつかわかる時がくるからです。それが教会です。イエス様は、命をかけて愛を示したのです。人々はそれを嘲笑って、一時憎まれました。しかし、彼が愛であったことがその後で気づくのです。

■ 危険！自分を保つ思い

皆さんの中に、好かれようという思いはないですか。人目を気にして何とかゴマをすっていませんか。群衆は自分の食べ物を得るために、ヘロデにゴマをすりしました。自分を保つ思いをこの朝捨ててください。あなたはあなたのままでいいのです。私たちは人に見せるためにするものではありません。しかし神様は、あなたの隠れた働きを見えています。だから私たちは隠れたところで、見えない神に賛美を捧げなければなりません。自分を保つ思いを捨て、あなたは私たちの神様の前に奉仕を行うのです。

■ 神の摂理 ヤコブとペテロ

なぜ神はヤコブを殉教させ、ペテロを助けたのでしょうか。祈って考えてみてください。それが神の摂理です。私たちはいつも「今」を見てしまいます。しかし神の目線はそうではありません。

■ ペテロの信仰

ペテロはなぜ牢屋の中で寝ていたのでしょうか。それは、ペテロは「歳をとるまで死なない」と言うイエス様の言葉を覚えていたからです。神の計画を信じていたのです。マリアが御使いに「あなたは男の子を産みます」と言われた時、エリサベツに「神の言葉を信じ切ったものは何と幸いです」と言われます。神様は約束してくださっています。途中で何が起きようとあなたは信じて寝てください。神様は必ず守ってくれます。なぜ群衆はペテロを捕まえたのでしょうか。それはペテロが異邦人に宣教を始めたからです。ペテロは自分の役割がわかっていました。自分の役割がわかっている人は、途中で何が起きても焦りません。八方塞がりであれば八方塞がりであるほど、神様が奇跡的な方法で助けてくださることを知ってください。

■ ヘロデの死

群衆に「神の声だ」と称賛されたヘロデは、虫に嘯まれて息が絶えました。彼は自らの欲のために食べた食物によって得た寄生虫に腸壁を破られて死にました。神の働きは、その人の悪事によって蓄積されていって、結果自らの役割を終えさせるのです。ヘロデは5日間この痛みで苦しんで死にました。ヘロデの死から、あなたは自らのために生きていないか、もう一度考えてください。

■ 神の目線 対 排除の目線

私たちは、神の目線と排除の目線のどちらをこの目で行っているのかをもう一度考える必要があります。あなたは自らのために何かを排除していませんか。自分の利を通すために、人を悪にしていますか。自分の願うことが通らないと誰かを排除していませんか。コロナにかかるのが怖いから、人に近づくなと言っていませんか。私たちは自らを見なくてははいけません。自らを見ることが出来る人は自分の弱さが分かるので、人を見る時に慈しむことができます。でも自らを見ないで人を見ると、あたかも自分は美しいもののように勘違いしてしまうので、相手を裁いてしまうのです。この朝、神の目線を回復したいと思います。

(要約者:浅野恵子)

(2020年7月26日)